

2025年12月能登支援報告

2026年1月1日

日本基督教団石巻栄光教会 主任担任教師 川上直哉

(NPO 法人「東北ヘルプ」代表・石巻広域ワイズメンズクラブ書記)

1. 概要

以下のように、支援に行きました。お祈りとご支援に感謝して、以下、報告します。

(1) 旅程：

2025年12月29日(月) 4時 石巻出発
7時 参加者をピックアップして仙台を出発
17時 トヨタレンタリース七尾でレンタカー借出
18時 能登島到着・温泉入浴
19時 島の民宿・えのめ荘着

2025年12月30日(火) 6時 民宿出発
8時 珠洲・輪島を視察
9時 スーパーもとやで「もちつき」・片付け
13時 町野第一仮設住宅で「ワイワイ喫茶」
15時 輪島教会を訪問
16時 日吉酒造を訪問
17時 輪島市役所を訪問
18時 七尾市にて商店街訪問・レンタカー返却
19時 民宿到着

2025年12月31日(水) 8時 民宿出発
18時 石巻着

金沢に「能登ヘルプ」訪問

(2) 参加者：ワイズメンズクラブ国際協会 DBC3クラブ(主催)・日本基督教団石巻栄光教会(共催) 被災支援ネットワーク・東北ヘルプ(共催)

小田哲也(ワイズメンズクラブ国際協会 福岡)
北村健一(ワイズメンズクラブ国際協会 神戸)
大野 勉 (ワイズメンズクラブ国際協会 神戸)
北島伸三 (ワイズメンズクラブ国際協会 神戸)
大野智恵 (ワイズメンズクラブ国際協会 神戸)
山田滋己 (ワイズメンズクラブ国際協会 神戸)
清水弘一 (ワイズメンズクラブ国際協会/日本基督教団石巻栄光教会)
川上直哉 (ワイズメンズクラブ国際協会/日本基督教団石巻栄光教会/被災支援ネットワーク・東北ヘルプ)
中澤竜生 (被災支援ネットワーク・東北ヘルプ 仙台)
李裕絃 (日本基督教団仙台北教会)
郷内宣子 (ワイズメンズクラブ国際協会 仙台)
青木まりえ (ワイズメンズクラブ国際協会 石巻)
中島かおり (ワイズメンズクラブ国際協会 神戸)

(3) 活動地：

- 珠洲市・輪島市：右地図を参照
- 「もとやスーパー」：輪島市町野町の商店および支援拠点。
右地図 MOTOYA および下記「2 (1)」を参照。
- 輪島市内 町野第一仮設住宅団地：2024 年 5 月にワイズメンズクラブ支援で入って以来、川上としては三度目の支援現場となる仮設団地。
- 日本基督教団輪島教会：2024 年 12 月 27 日の主日に川上と李裕絃さんが礼拝に出席した教会。
- 能登 HELP：「東北ヘルプ」も参照しつつ加賀・能登の諸教会が連帯して設立した支援団体。
- えのめ荘：地震で倒壊し、家族手作りで再建に向かっている民宿。
2025 年 7 月の支援活動の際、予定していた宿泊地が使用不能となり、急遽 宿を提供いただいたご縁で、今回も宿泊所とさせていただいた。



2. 観想・感想

支援の旅は、一つの「巡礼」だと思います。

「巡礼」は、そもそも「さすらい人の生活=Peregrinatis」と呼ばれていました。しかし、長いキリスト教会の歴史の中で「病氣直し」を得るための旅となり、果ては「贖宥」を得るための旅となって、宗教改革期に厳しく批判されたものです。

支援の旅も、支援することによる実利・名利を求めるようになった時、それは厳しく批判されるべきものとなる、と、十戒の第三戒を想起しつつ、思います。ただ「叫びが聞こえる・虐げられている有様が見える」現場におられる神様に「行け(来い)」と呼びかけられる、その呼びかけに応じて身体を運ぶ時、「さすらい人の生活」は「巡礼」となる。そんなふうに、出エジプト記 2 章から 3 章を思い出し、「支援の旅は、一つの巡礼だ」と、思うのです。(参照：芳賀繁浩『《巡礼》の今日的意味』『教会の神学』32号、2025年、日本キリスト教会神学校)

神さまが共にいて下さった道中を思い出し、その恵みを数えて喜ぶ祈り(観想=Contemplatio=theoria)として、以下に短く感想を記します。

(1) 復旧までもまだ遠く

津波被災地である珠洲市は、私が 2025 年 7 月に訪問した時と、ほとんど変わらない様子でした。ただ、瓦礫の撤去は進んだ様子に、復旧への進歩を確認できたことです。



珠洲市の隣にある輪島市町野町へ、海岸線を通って進もうと思いましたが、まったく通行止めとなっており、山越えをすることになりました。そこで見たものは、「山崩れをそのままに、ただそこに道を通した」という様子でした。それはバス通りでも同じでした。自動車でも 40 分ほど、そうした道を踏破した後、「平穩」な道路に出て 10 分も進むと仮設住宅団地、災害復興 F M 局、そして「もとやスーパー」に到着しました。

「もとやスーパー」の皆さんとは、2024年12月以来の御交誼を賜っています。震災後に激しい人口流出の流れが起こり、「スーパーマーケットが無くなったら、町野町から誰もいなくなる」という危機感を胸に営業を続行し、2024年秋の大水害の甚大な被害を受けつつ、なお踏み留まっているお店でした。補修を繰り返しながら営業を続けてきた店舗の「取り壊し」が遂に決まったということで、その片づけをお手伝いすること。それと並行して、「餅つき」をして、町の方々に、珈琲と共にふるまう事。それが30日午前の支援活動でした。



その活動中、郵便配達の方が通られましたから、お声がけをして、「お餅のおふるまい」をさせて頂きました。「ここから10分行けば、崩れた山の中に道だけを通した場所が広がりますね」と話しますと「はい、パンク覚悟で仕事をしています」と、応じられました。



若い女性お二人が立ち寄って下さいました。お餅を食べながら「もうすぐ本番！」とおっしゃるので、お話を伺いました。「『まちのラジオ』をやっています。聞いてください。」とのこと。早速、インターネットで検索しますと、ポッドキャストでバックナンバーを聞くことができました。2025年12月16日には「小泉今日子さんが来た」とのこと。その番組で、東京から来ていたTBSアナウンサーの方が「まだ道路が（グチャグチャ…と言いかけて）工事を続けていますね。まだまだ、という感じですか？」と聞くと、地元の人は意外そうな声で「そうですか。外から見れば、そう見えるのですね。私たちは、どんどん復旧していると思っていましたが・・・外の方の感想は貴重です」と応じていました。

復旧までもまだ遠く。そんなことを思わされたことです。

（2）日本基督教団輪島教会と「能登ヘルプ」

午後、仮設住宅団地内の集会場で「ワイワイ喫茶」が開催されました。団地から9名の方々が参加下さり、みんなで歌い、小田さん扮する「ピエロ」の手品を拝見しながらの、楽しく穏やかな時間となりました。途中、珈琲を共にしている間に、川上と李さんが日本基督教団輪島教会へ向かい、日本基督教団石巻栄光教会の献金（11,000円と8,000円）を手渡しました。それらと並行して、東北ヘルプからの訪問として、中澤さんが加賀・能登の諸教会の支援ネットワーク「能登ヘルプ」代表の岡田牧師を金沢に訪問してお話を伺いました。

輪島教会の仮設礼拝堂には、貼り切れないほどのクリスマスカードが掲示されていました。全国の諸教会から届いたものでした。そうした祈りと支援に支えられ、間もなく牧師館の建設に進む段取りがついているそうです。礼拝堂については、倒壊した礼拝堂を2025年1月によく解体することができ、また隣地の取得も目途が立ち、これから建設計画を立てる段階であるそうです。私たちは「会堂建設」が教会に分裂を齎す事例の枚挙にいとまがないことを語り合い、神様の守りと導きと祝福を祈り、別れたことです。



一方、「能登ヘルプ」の訪問は2時間に及びました。「クリスチャンの獲得」を目指す支援活動が次第に大きくなってきている事、それでは先行きが危うい事、それでも一致を守る苦勞、そして、震災前からある教会の課題や幻——という現実は、「3.11」以後の東北でも実感された課題そのものでした。困難を共にしてくださいる主に、共に祈る時を持ちました。

(3) お酒と伝道

2024年11月、私は世界宗教者平和委員会「災害タスクフォース」のメンバーとして、ようやく撤去作業が本格化している「能登の朝市」跡に立ち、神道・仏教の方々と共に祈りました。



その朝市は2024年1月に大火災となったことで有名ですが、1910年にも同様の大規模火災があり、そしてその時も、2024年同様、火焰は日吉酒造様の手前で止まったそうです（祈りを一緒くださった重蔵神社様に、詳しくお話を伺いました）。その日吉酒造様の前で、私たちは祈ったのでした。



今回、輪島教会を訪問した後、日吉酒造様を訪ねました。店裏の酒蔵が地震で倒壊した中で「能登の酒を止めるな」と声を上げ、「ライバルの酒蔵にお願いして、協働製造で」伝統の日本酒を造り続けているそうです。「みんなで力を合わせて、ここまで来ました」とお話しくださったことが、とても印象的でした。

「例年であれば、もう、正月飾りをしているのですが、震災後、どこでも、本当に、そんな気分にならなくて。私たちも、まだ、二重生活を続けていますし・・・漁師さんたちは、頑張って、正月飾りを出していますけれどね」——とのこと。本当に、どこにも、正月飾りを見なかった珠洲市・輪島市だったのでした。

「お忘れかもしれませんが・・・」と、2024年11月にお世話になったことをお伝えしますと、思い出してくださいました。さらに「今、輪島教会を訪問してきました」と伝えると、とてもうれしそうに「牧師さんはお元気ですか」とお訊ね下さいます。「輪島にも、キリスト教会がある。それは私たちの誇り・喜びでした。礼拝堂が取り壊しになり、心配していました。再建計画が進んでいることを、本当にうれしく思います。よろしくお伝えください。」と語ってくださいました。「ああ、伝道とは、こうして実をつけるのだ」と、実感しました。輪島教会の進藤牧師は、日吉酒造様の「常連客」であった、との事。そうした（クリスチャンを増やそうという下心なしの）地道な「そこにいる」日々の積み重ねが、いつか「福音を必要とする事態」に際して、大事な拠点を残すことになる。その様に学び、改めて敬意を深めたことです。

最後に輪島市役所に立ち寄り、高速道路の無料措置のための印を頂きました。支援活動の簡単な報告を求められましたので、一日の報告を手短かに致しましたら、「いいなあ。餅つき。行きたいなあ・・・」と、のどかでした。「また来ますから、是非、餅を食べに来てください」と、うれしい遣り取りを交わして、宿に戻ったのでした。

(了)